宝塚希望応援隊　平成23年（2011年）5月27日～平成24年（2012年）6月11日

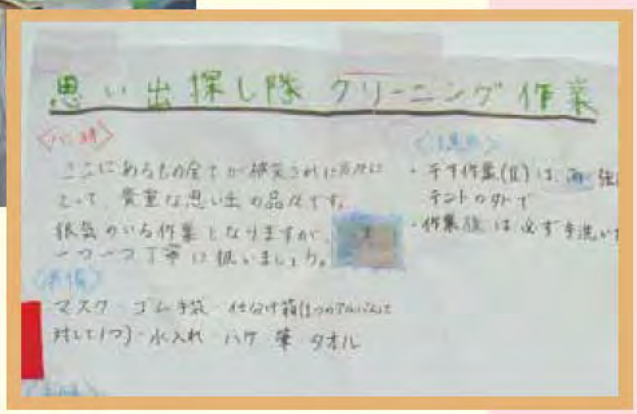
阪神・淡路大震災では、私たちは全国からたくさんの温かい支援を受けました。今度はそのお返しをする時です。被災地に元気と希望をお届けするため、「宝塚希望応援隊」と名付けたボランティア派遣を編成し、2012年6月時点で10次にわたり支援活動を行いました。

第1次宝塚希望応援隊

■平成23年（2011年）5月27日（金）～30日（月）　■宮城県南三陸町

◆39名（ボランティア34名、宝塚市社会福祉協議会（以下社協）職員3名及び市職員2名）
◆写真の洗浄、南三陸町「福興市」駐車場の整理等

何もかも流され、残ったのはたった１冊のアルバムだけかもしれない。
無事持ち主の手に戻ることを祈りました。



混乱の中のボランティア活動

- 成果もあり大変良かった。この良き経験を更に活かして微力ながらも今後役立たせたいと思います。
- ２日とも、雨でしたが、その中で指示くださった内容に対応ができホッとしています。「福興市」においても被災地の方に出会い、お話できたことがなぜかうれしかったです。
- 少しですが、被災者の皆様のお助けが出来たのではないでしょうか。
- 現地のボランティアセンターの要請により、活動の内容が決まるのは理解できるが、事前の打ち合わせがもう少し早ければ、またはもう少し詳しければもっとスムーズに運んだのではないかと思う。
- 募集の要項には泥かき作業が紹介され準備物もそれに沿ったものが書かれていたが、実際は現地に行かないと分からないとのことだった。何故そうなったのか疑問に思う。受け入れ側も大変な状況だと思うが、行く者としてはその作業を想定して心身共に準備してきただけに少し心残りである。実際の作業は１日目、２日目とも被災者を陰から支える活動だったので、意義あるものだったと思う。
- 初めてのボランティアには、今日のような市・社協のバックアップ付きという活動はとても参加しやすかったです。活動内容は、その日その日の要求によるものが大きいのだと痛感しました。

（アンケートより抜粋）

第2次宝塚希望応援隊

■平成23年（2011年）6月9日（木）～11日（土）　■岩手県大船渡市

◆3名（市内花き･植木産業関係団体2名及び市職員1名）
◆大船渡市の小中学校18校に花苗プランター200基を贈呈するとともに、小浜幼稚園児の寄せ書き、御殿山中学校生徒のメッセージ、地域児童育成会児童からの折鶴を大船渡市長にお届けしました。

植木のまち宝塚から
の贈り物。

宝塚市花き園芸協会
宝塚山本ガーデン・
クリエイティブ㈱

いつも思いを
添えて…。

可憐な花は沈んだ心に希望を与え
街を明るくしてくれました。

お礼の手紙

大船渡市立日頃市中学校　生徒一同

きれいなお花をありがとうございました。
昇降口で毎日私たちを励ましてくれるこのお花を
～みんなで大事に育てます～

すてきな花を遠くから贈ってくださってありがとうございました。花は日頃市中学校の生徒昇降口のところに並べて置きました。きれいな花なので、大事に育てたいと思います。

新沼綱四郎

プランターの花をありがとうございました。いろいろな種類があってきれいだなあと思いました。そして、とても明るい気持ちになり、いただいた花ががんばって生きているからぼくもがんばろうという気持ちになりました。

この花をトラックで宝塚市から運んでくださったことを聞き、大船渡のために、遠い道のりをたくさんの人の思いといっしょにここに運ばれてきたんだなあとうれしく思いました。

きれいなお花、本当にありがとうございました。

鈴木陽人

津波で被害を受けた大船渡市や高田松原は、復興にむけて一歩ずつ前へ進んでいます。宝塚市の方からいただいた花を見ていると元気が出てきます。お花、ありがとうございます。

平山友里

私達の学校にきれいなお花を贈ってくださってありがとうございます。日頃市中学校の全校生徒は、47人と少ないですが、みんな明るく元気な学校です。

私達の学校の被害は少なかったので、体育館が使えないということ以外は普通に楽しく学校生活を送っています。市内の学校には、3階まで海の水に襲われて使えない学校もあります。

新沼来望

（寄せ書きより一部抜粋）

第3次宝塚希望応援隊

■平成23年（2011年）7月1日(金)～4日(月)　■宮城県女川町、石巻市、南三陸町

◆40名（ボランティア36名、社協職員2名及び市職員2名）

◆清掃作業、イベント補助、排水溝泥かき、土のう作り、がれき分別や撤去。同時に殺虫剤、虫除けグッズを女川町災害対策本部にお届けしました。

報道だけでは分からない現地の匂い、空気に触れることで、被害の大きさを実感しました。

若い人達の活躍

- 阪神･淡路大震災の時の、全国の皆さんからの温かいご支援を思い出し、万分の一のお返しが出来たらと思い応募しました。現地はテレビに映るそのままの姿に驚きました。全国の皆さんがボランティアに来られて、若い人達の指図に従い一生懸命な姿を見た時は、日本の将来も自分の思っていたのと違い、安心出来るなと思いました。
- 甚大な被害のある南三陸町で活動ができ、大変貴重な経験をさせてもらい感謝しています。また、社協の引率スタッフの方が若いのにしっかりされていて感心しました。
- テレビからだけではわからない現地の状況や、今、どんなボランティア物資が必要とされているか肌で感じることができた。若い方も参加していて、よく最近の若い子はという大人がいるが、若者にも高い志を持って人の役に立ちたいという気持ちを持った若者がたくさんいるのだと分かりうれしかった。
- 南三陸町での活動。民家のガレキ処理はやりがいを感じました。住民の方と会話でき、写真をお送りすることになりました。漁に出ていて帰ったら津波で被害を受けられましたが、これからも頑張るとおっしゃっていました。チリ地震での津波のあと、高台に住民が運営する避難所を設けられていました。今回役立ったそうです。
- 迷惑をかけるんじゃないかと心配しましたが、皆さんが心優しい方ばかりなので安心して行動できました。

（アンケートより抜粋）

第4次宝塚希望応援隊

■平成23年（2011年）7月23日（土）～27日（水）　■宮城県気仙沼市

◆8名（市民大工ボランティアグループ「でえくさんず」7名及び社協職員1名）
◆仮設住宅の段差解消など、使い勝手の良い修繕を行いました。

玄関前の段差が大きく、出入りがしにくいなど、仮設住宅特有のニーズがあり、要望に応えられて充実感をもって作業できました。

高齢者にはキツい出入り口の段差

- 阪神･淡路大震災の復興ボランティアの経験がある「でえくさんず」としては、すぐにでも駆けつけたい気持ちで焦りましたが、状況がわからず行っても迷惑になるだけです。現地からの要請があるのを待って、やっと7月に行くことができました。僅か現地3日間の活動でどれだけの事ができたのか、今でも心残りです。
- 事前の情報収集と準備により、現地での活動は順調に進みました。7人の協働ではかどり、想定以上の仕事ができました。一期一会の出会い、他のボランティアとの交流があり、今でも血がさわぎます。
- 仮設住宅41戸で、入口の段差解消工事を行いました。そしてこれ以外に困っていることを聞いたところ、縁側の巾が狭く危険とのこと、しかし現地に木材が無く途方にくれていましたが、関係者の奔走でなんとか入手。約20戸の拡幅が完成、その他種々の要望にも対応し、最後には仮設住宅住民の方々と仲良くなり、機会があればまた来ますと、別れを惜しみました。
- 気仙沼に夜中に到着、キャンピングカー内で仮眠、長旅に少々疲労、夜明けとともに目に入ったのは瓦礫の町でした。精一杯頑張ろうと思いました。
- 関西人と東北人の気質違いを感じました。大変辛抱強く奥ゆかしいので感心しました。

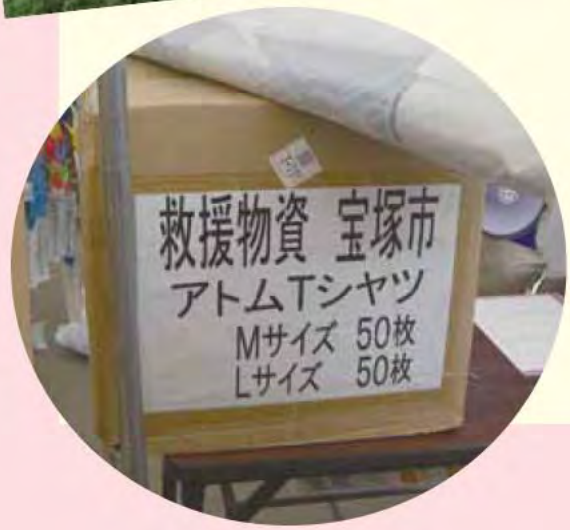
（アンケートより抜粋）

第5次宝塚希望応援隊

■平成23年（2011年）8月1日(月)～4日(木)　■宮城県南三陸町

◆20名（ボランティア18名、ボランティアセンター職員1名及び市職員1名）
◆がれきの分別、撤収を行うとともに、アトムプリントTシャツ、仁川幼稚園児の寄せ書きをお届けしました。

震災から５ヵ月過ぎようとする今でもまだまだ何も片付かず、多くの人手を必要とする状況が続いていました。



女性ひとりでの参加でしたが

- 女性一人での参加ということもあり、不安な点もありましたが、細かくサポートしていただき、安心して活動することができました。もし分かるのであれば、現地の状況を募集の際にもう少し詳しく教えて頂けると、もっと参加し易くなるのではないかと思いました。
- 自身、今回で３度目の活動だったのですが、どの活動場所においても、まだまだ人手が要りそうで、機会がありましたら今後も参加出来ればと思います。
- テレビなどで報道されていることと、実際間近で見るものとは全然違うので、本当に色んな方に来て欲しいと思った。被災地は一つも片付いていないし、行政が本当に行き届いていないことなども良く知れた。ただ、活動場所にはこの時期（夏）に咲くひまわりや草木を見て元気になる場所もありました。本当にこの活動ができてよかったです。
- 祖母の実家が福島、祖父の実家が宮城、大学が東北福祉で石巻の親戚宅が全壊などし、南三陸で後輩を、石巻で義祖母を亡くしました。しかし、いつもどの親戚からも言われることは、「東北に関わってくれたことに対し、お礼を伝えてほしい。」とのことです。そして、２度南三陸に行けたのも、一緒に阪神・淡路大震災時に募金を集めた後輩が、街の復興のために一緒になって汗を流しているかもしれないと思いつつ、力を出しました。
- あと２～３日、ボランティア活動ができれば効率的ではないでしょうか。個人のスキルに対応したボランティア活動が出来ればなお有効ではないでしょうか。

（アンケートより抜粋）

第6次宝塚希望応援隊

■平成23年（2011年）8月5日(金)～8日(月)　■宮城県南三陸町

◆20名（ボランティア18名、ボランティアセンター職員1名及び市職員1名）
◆がれきの分別撤去、家屋の泥出し、病院での医療器具の撤去などを行うとともに、がれき分別などの作業用皮製手袋をお届けしました。

黙々とただただ汗を流しました。
少しでもお役に立てるならと。

気持ちを行動に

- とても良い経験ができたと感謝しています。個人でボランティアに行くのは不安だったので、社協さんと市が募集されている活動で、日程が合うものがないかと頻繁に HP をチェックしていました。社協の方、市役所の方が丁寧に対応していただけたので安心して参加できました（ 慣れない業務でお疲れのことと思います ）。私は教師です。今回の経験をどのように子どもたちに伝え、どのようにして心豊かな子どもたちの指導につなげていくか、今後の私の課題です。
- 単なる自己満足ではいけないのかもしれませんが、今回参加出来たことは非常に有意義な経験でした。一つは、ボランティアに何が出来て何が出来ないか生々しく考えられたこと。一つは何かしたいという気持ちを行動に出来たこと。一つはこういう形でしか会えなかったであろう皆さんと、話せるご縁をもてたことです。
- 各自治体がこの様に動いてくれる事に感謝致します。今後も行動的な自治体であって欲しいものと思います。又、ボランティア活動は阪神大震災以後、着実に根づいたものと思われます。「特に将来をになう学生達にも是非経験させてやって欲しいものと思います」法律より、マナー、躾を大切にする子達であって欲しいものです。
- 長期ボランティアの人達は大変だなぁと思いました。私達の力なんてほんの少しですが、行く事に意義があると思います。長い集団生活は本当に大変だと思います。

（アンケートより抜粋）

第7次宝塚希望応援隊

■平成23年（2011年）8月8日(月)～11日(木)　■宮城県南三陸町及び女川町

◆40名(宝塚少年少女合唱団35名、落語家 林家染左さん、宝塚市文化財団職員4名)
◆合唱コンサートと落語の上演

巧妙な口調の落語に、会場は笑顔があふれました。

澄んだ歌声は被災地の風に乗って流れていきました。

亡くなったお孫さんを
思い出し涙する方も…。

心を癒す交流を

二公演とも、前半に林家染左さんの落語、後半に宝塚少年少女合唱団の合唱で構成。

どちらも避難所になっている場所への訪問でしたが、集まった被災者の方々は、落語では笑顔を見せておられ、合唱では一生懸命な子どもたちの歌声に聞き入っておられました。また終演後には、沢山の拍手と感謝の言葉をいただきました。中には、震災で亡くなったお孫さんの姿を合唱団の子どもたちに重ね合わせ、涙を流す方もおられ、終演後に子どもたちと会話を交わす場面も見られました。

また、女川町では総合体育館の担当職員の方から、震災時の女川の状況などをお聞かせいただき、子どもたちは貴重なお話に熱心に耳を傾けていました。

公演に来られたお客様には大変喜んでいただき、目的は達成できたと感じています。

ただ、現地での集客には苦労し、南三陸公演では子どもたちがチラシを被災者に渡し、女川公演では林家染左さんが直接館内放送でPRを行いました。今後は、受け入れ先との連携をより密に取り、多くの方に来ていただけるような方策も考える必要があると感じました。

（宝塚市文化財団職員）

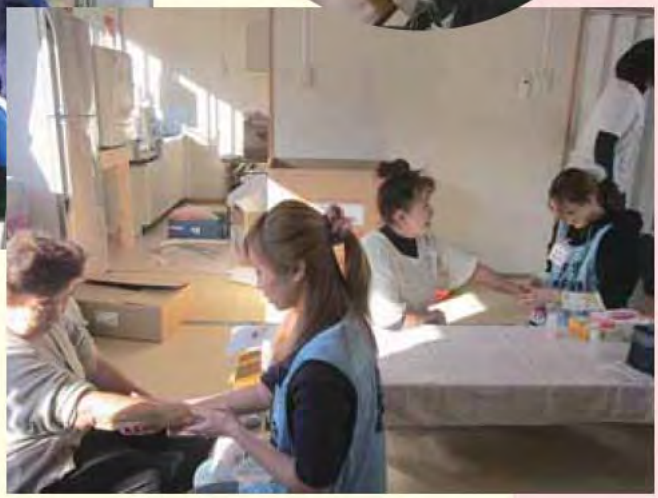
第8次宝塚希望応援隊

■平成23年（2011年）12月16日（金）～19日（月）　■宮城県南三陸町

◆10名（ボランティア9名、関西アロマセラピスト・フォーラム9名、ボランティアセンター職員1名及び市職員1名）

◆土のう作り、家屋の泥出し、アロママッサージの提供。宝梅中学校生徒が作成した手作りクッションと箸置きをお届けしました。

今も片付かない瓦礫、先の見えない避難生活。
まだまだ多くの人達の力が必要でした。



そっと添える手に、心がほぐれていくと喜ばれました。

心も体も安らぐアロママッサージ

- 足手まといにならず作業ができて少しばかりホッとしています。今回、作業予定通りにがれき撤去の作業で自分で軍手や何種類かのビニール袋を用意していたのですが、受付時にいただいたがれき撤去用の手袋が大変重宝しました。
- 寒さや雪による影響を心配しましたが、順調な行程で終えられることができ、良かったと思います。宿泊先のお食事は豪華で少し気が引けました。活動日ごとに、みんなで振り返る場があっても良いのではと思いました。
- まだ現地にはボランティアの需要はあるように、災害ボランティアセンターのお話がありましたので、ぜひもう少し宝塚希望応援隊も続けて支援をお願いしたいと思います。
- がれき班としては、2日目作業終了後の入浴はたいへん有難い行程です。
- アロママッサージを喜んでもらえて嬉しかったです。また機会があれば参加したいです。
- 作業内容は、アロママッサージ、ペットの爪切りとケアでした。ボランティアは初めての参加だったので、少し不安もありましたが、みなさん温かい人たちばかりで良かったです。
- 被災地には2日間のボランティア活動でしたが、私にもできることがあったことに感謝しています。心のケアが今から必要だと感じました。

（アンケートより抜粋）

第9次宝塚希望応援隊

■平成24年（2012年）3月16日（金）～19日（月）　■宮城県南三陸町及び女川町

◆18名（市体育指導委員6名、関西アロマセラピスト・フォーラム10名及び市職員2名・女川町派遣職員2名）
◆市体育指導委員が考案したアトム体操の指導、輪投げ大会、アロママッサージの提供などを行いました。

輪投げ、アトム体操。
皆さんとても喜んで
下さいました。

身も心もほぐれて、
ホロリとするお話も…。

住民の方とのふれあいが大切

- 活動も大事ですが、住民の方とのふれあい、笑顔を見せてもらってとても嬉しかったです。体験の話をしっかり分かりやすく話して頂き心痛みましたが、話して下さった事に嬉しさを感じました。今回は体育指導委員とアロマセラピストの方との協力でとても良かったと思います。最後に自治会長（入谷小学校仮設所）さんから、「兵庫県の皆様は一番早くボランティアに来て頂き、1年経っても多くの方がまだ来てくださり、これも阪神・淡路大震災に遭われての想いがあるからだ」とのお言葉がありました。
- アロマトリートメントを通して、この間の大変なご苦労のお話や健康上のお話など、たくさん聞かせていただきました。皆さんボランティアに対して感謝の気持ちを言ってくださるのですが、もっともっと私たちはお手伝いさせていただきたいし、まだまだ支援の手が足りないと思っています。肩こりや腰痛、不眠症、高血圧など、震災後より体調の変化が多く出てこられているようです。無理をしないでと言うのは難しいと思いますが、お体を大切にしていただきたいと思いました。
- 体育指導委員の方と一緒に、アトム体操と輪投げの活動させていただきました。とっても和やかに楽しく活動ができよかったです。ただ、アロマは癒し、体操や輪投げは楽しさと求めるものが違うため、一緒の場所で2つの事を同時にすることがどうなのか…、と思う場面もありました。組み合わせで活動する場合は、同じ系統のものの方が良いかもしれません。

（アンケートより抜粋）

第10次宝塚希望応援隊

■平成 24 年(2012 年)6月8日(金)～11日(月)　■宮城県南三陸町歌津地区

◆23 名(ボランティア 20 名、市職員 2 名及び社協職員 1 名)

◆「娯楽活動を通して仮設住宅の方々と共感する時間を持つことで、コミュニティづくりのお手伝いをする」という趣旨のもと、子ども向け工作、花苗の植え付けから落語、マジック、腹話術、南京玉すだれといった個人芸能など、さまざまな支援活動を行いました。

いっしょに優しい心で花を植え、
いっしょに心から笑えるひと時。

あの辛い日から笑う事を忘れていたという人々。
涙を流して笑ってくださいました。

継続的な活動が必要です。

- 癒しのイベントでは、派遣ボランティアと仮設住宅の住民が一緒に出来るものが好評でした。手品など、披露するものも好評ではありましたが、連続となると集中力が保たないような場面もあり、炭坑踊りなどは足腰が悪くできない人もいらっしゃいました。苗木を植える作業では、被災地の方が「仕事、作業をしたかった」と喜ばれていました。現地に着く前から土の準備などをされ、楽しそうに作業をしてくださった。合唱では被災前のことを思い出され、涙ぐまれる方もいらっしゃった。
- 花の苗付けや手品の披露では、歌津の皆さんに楽しんでいただけて喜んでおります。このような心のケアについても、継続的な支援が必要だと思いました。ただ被災地では、がれきなどがまだまだ残っており、復興までに時間が掛かります。私は周りの人に今回の体験を伝えることから実践してゆきます。

（参加者の声より）

すばらしい歌津をつくる協議会 会報 「一 燈」 より抜粋

4カ所で花やゴーヤ苗植え、マジック、腹話術、落語、南京玉すだれ。平成の森会議室では手芸やストラップづくり、新作の講習などが行われた。被災者に少しでも楽しんでもらおうと、一生懸命に芸に取り組む姿は素人とは思えない堂々とした見事な芸であり、仮設入居者の心を捉え、笑いと語らいに花が咲いていた。（略）

遠路のところ、ありがとうございました。皆様の善意の一挙手一投足が十分被災者に伝わったものと思います。